

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士科(夜間部)		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	症例演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	井上 晃仁	実務経験とその関連資格	臨床工学技士としてH4年より、大阪母子医療センターに臨床工学科科長として勤務し、現在MEセンター技師長を務める。臨床ME専門認定士。Ⅲ学会呼吸療法認定士。体外循環技術認定士。			
《授業科目における学習内容》						
臨床工学技士がしばしば遭遇する症例の対応について、演習形式で学び実践に活かせるようになる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験： 70% 2. 出席点： 20% 3. 平常点： 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
臨床工学技士標準テキストなど						
《授業外における学習方法》						
授業後の復習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習で遭遇する可能性の高い症例の対応について学ぶのでは是非とも興味を持って臨んで欲しい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	慢性腎臓病と透析治療に関する症例演習	臨床工学技士標準テキストなど		授業後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	慢性腎臓病とその透析治療に焦点を当て、症例演習を通じて学生が理論を実践に結びつけ、臨床的な洞察を養う。			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	急性腎臓障害と血液浄化療法に関する症例演習	臨床工学技士標準テキストなど		授業後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	急性腎臓障害とその治療に焦点を当て、血液浄化療法を中心にした症例演習を通じて学生が理論を実践に結びつけ、臨床的な洞察を養う。			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	循環器疾患と人工心肺に関する症例演習	臨床工学技士標準テキストなど		授業後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	循環器疾患とその治療に焦点を当て、人工心肺を中心にした症例演習を通じて理論を実践に結びつけ、臨床的な洞察を養う。			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	循環器疾患と補助循環装置・除細動器操作に関する症例演習	臨床工学技士標準テキストなど		授業後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	循環器疾患の病態生理学や症状、補助循環装置や除細動器の原則、適応、操作方法についての理解を基盤として展開する。実際の症例を通じて、補助循環装置や除細動器の操作に関するスキルを磨く。			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸器疾患と呼吸療法装置の操作に関する症例演習	臨床工学技士標準テキストなど		授業後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	呼吸器疾患に焦点を当て、呼吸療法装置の操作を中心にした症例演習を通じて、理論を実践に結びつけ、臨床的なスキルを養う。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	酸素療法が必要な呼吸器疾患と呼吸療法装置の操作に関する症例演習		臨床工学技士標準テキストなど	授業後の復習をしておくこと。
	各コマにおける授業予定	酸素療法が必要となる主な呼吸器疾患やその病態生理学、呼吸療法装置や高気圧酸素療法装置の種類や操作方法についての理解を基盤として展開する。			
第7回	授業を通じての到達目標	手術室業務における生体モニタ、麻酔器、生命維持管理装置の操作に関する症例演習		臨床工学技士標準テキストなど	授業後の復習をしておくこと。
	各コマにおける授業予定	手術室での業務における生体モニタリング、麻酔管理、生命維持管理装置の使用に関する理論と実践を結びつける。実際の手術状況をシミュレートした症例を通じて、装置の適切な操作と緊急時の対応力を磨く。			
第8回	授業を通じての到達目標	グループディスカッション: 症例シナリオに基づく装置の操作に関する問題の解決。		臨床工学技士標準テキストなど	授業後の復習をしておくこと。
	各コマにおける授業予定	臨床工学技士業務を適切に遂行するための実践的なスキルを養い、生体モニタ、麻酔器、生命維持管理装置の操作に関する症例演習を通じて、臨床現場での貢献度を高める準備を行う。			